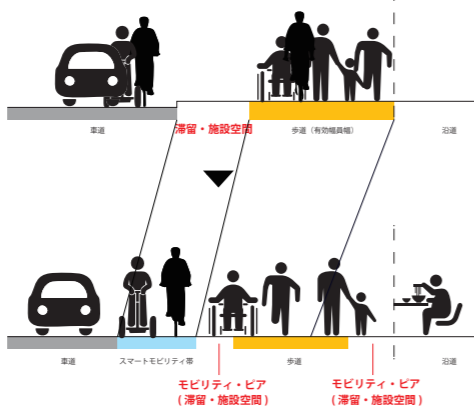


所作の重なり合うみち



道路の将来的な変容

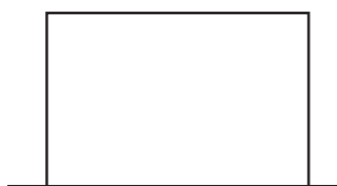
モビリティは進化は目覚ましいものがあり、これまでのような歩行者と自動車という二元論的議論では対応できません。一方でセンシング技術も発展している中では従来の有効幅員の考え方も見直しを図ることも必要と考えます。そこで本提案では、多様なモビリティによる多様な速度環境を断面構成の工夫によりグラデーション的な配置になるように再構成します。多様なモビリティを受け入れる基盤として、車道の有効幅を狭めることで多様な交通にあわせた幅員設定を行います。車道幅を狭めたことで生じた空間はパーソナルモビリティへ当てがうことで自転車走行可能な歩道幅を歩行者専用とし、滞留や多様な交通間の結節点（ピア）を所々に設定します。



ミュージアムロードのありかた

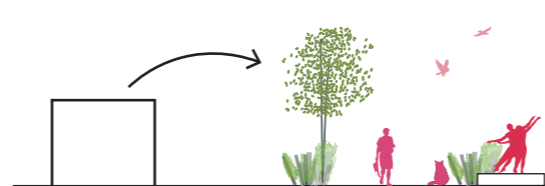
私たちは都市を支える移動・流通そのものの仕組みや結節点を再編することで、日々の人々の所作そのものを通してアートを感じるまちとなるようなデザインを提案します。その場を利用する人々の服装や行動、姿勢、モビリティによるモノの動きなどの重なり合わせに、「ミュージアムロード」として「現象的アート」を創出しようというものです。

〈これまでの美術館〉



美術館という箱の中でアートに触れる

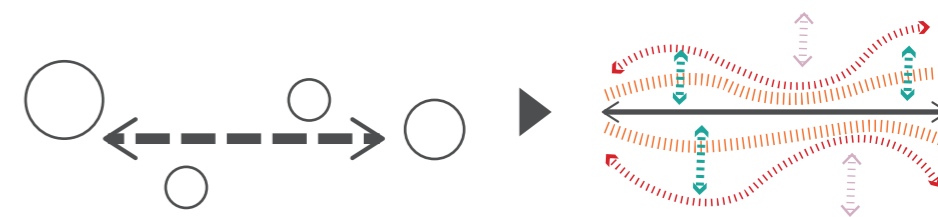
〈これからのアートとは〉



屋外での人の所作・営みの中にアート性を見出す→「現象的アート」

みちの考え方 | 所作の重なりを生むみちへ

本提案は、これまでのように目的地としての美術館と駅などをつなぐ「みち」である現状に対して、「みち」を利用する人、モビリティ、さらにその所作を含めた「まちの動き」そのものまでをも包含しようとする試みです。その結果として、まち全体がミュージアムとなるように導いていきます。

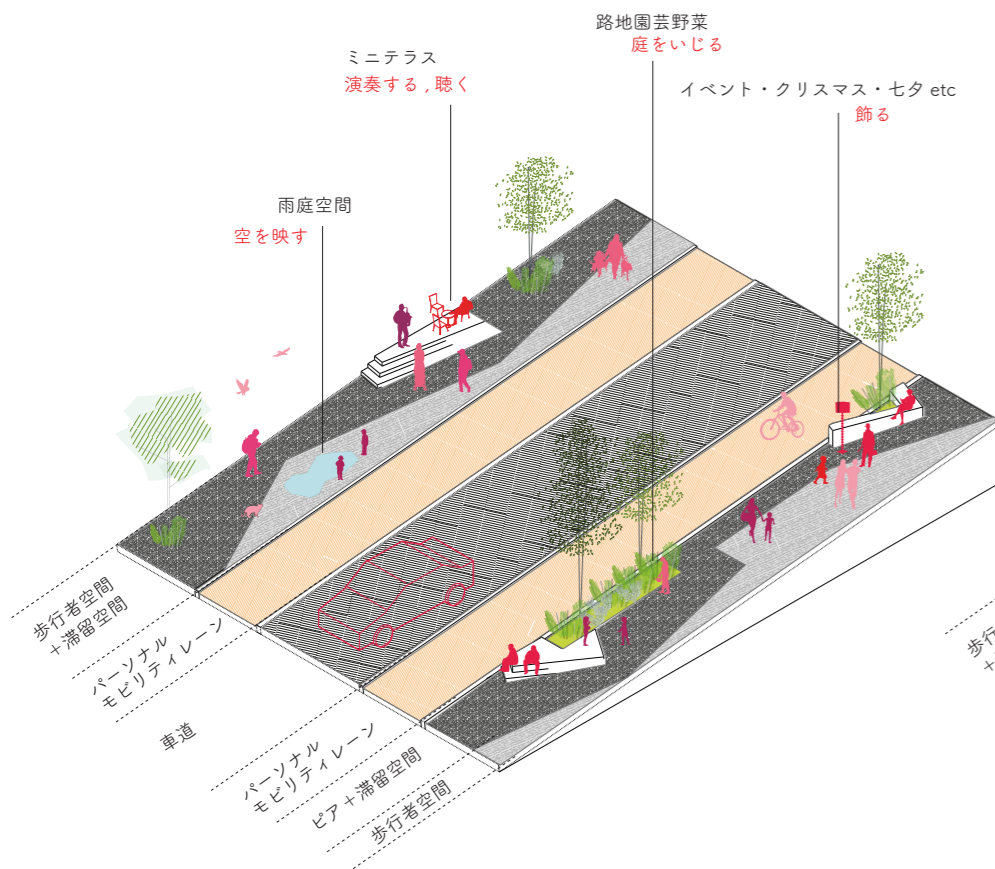


既存コンテンツを結ぶ
移動手段としてのみち

ピアを通して
多様な移動・視線が絡み合い
みち沿いに営みが滲み出す
→現象的アートの促進へ

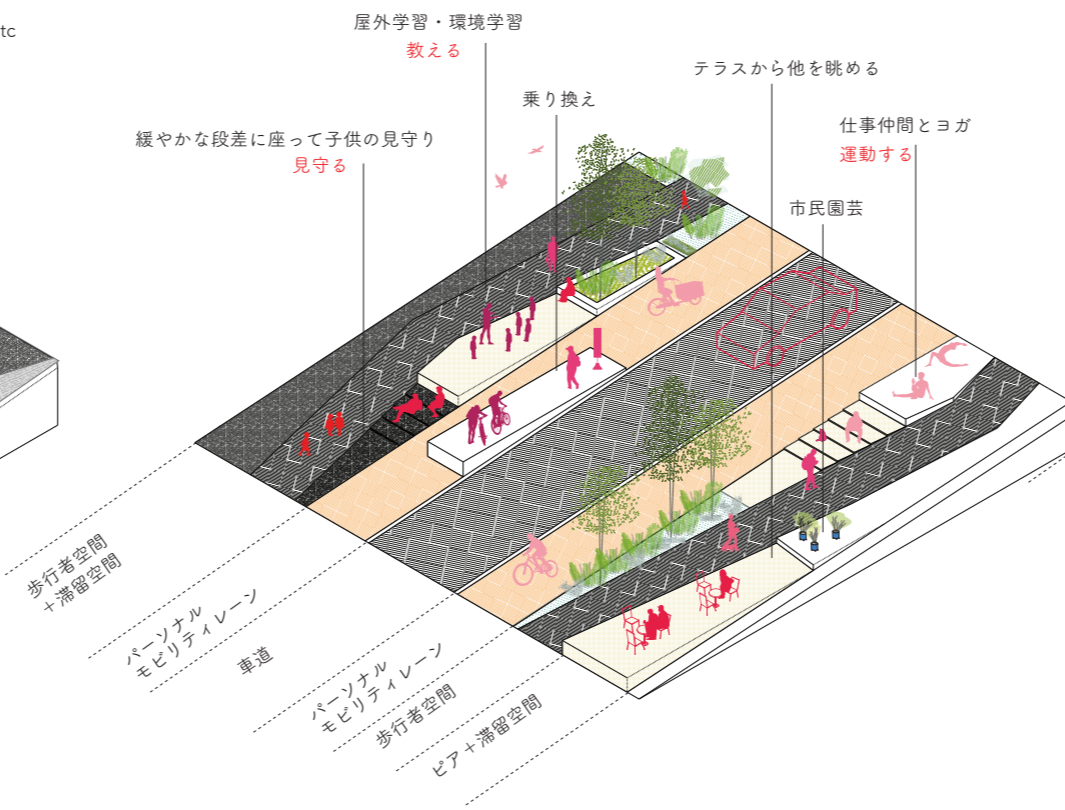
A. 「居心地」のピア x 歩車分離

対象路線の中でも住宅が多く建ち並び生活感のあるエリア。このエリアでのホワイエは、日々のさまざまな生活シーンが顕れます。また教会や寺院などを中心とした宗教施設も立地することを活かし、関連するイベントにより時期ごとの変化ある風景が生まれます。



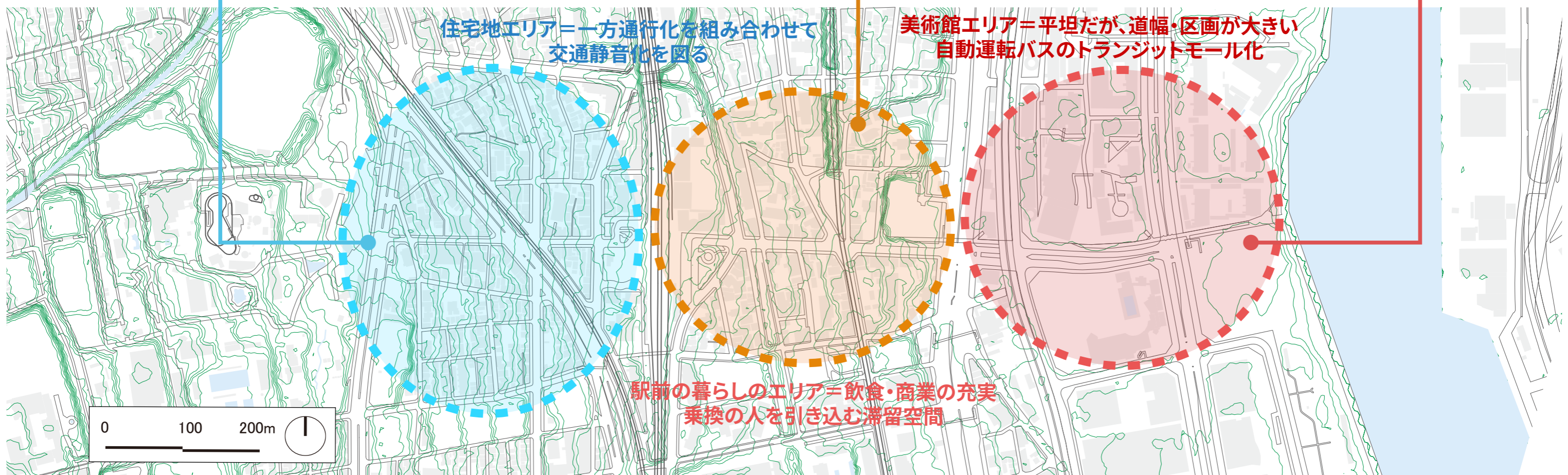
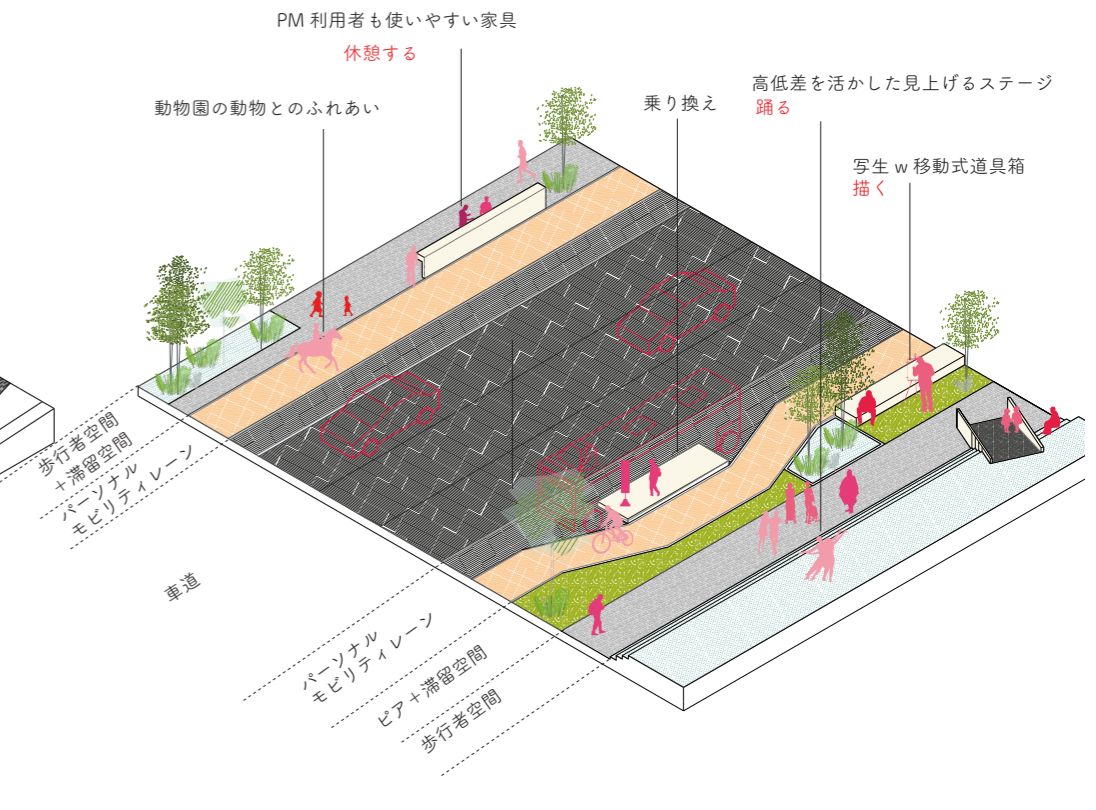
B. 「交流」のピア x シェアードストリート

対象路線の中でも灘駅・岩屋駅があり飲食店も多く建ち並びほか住居以外にもオフィスなど混在するエリア。このエリアのホワイエは、住民からワーカーまで多様な利用者に合わせ朝昼晩で多様な風景が広がります。



C. 「動き」のピア x トランジットモール

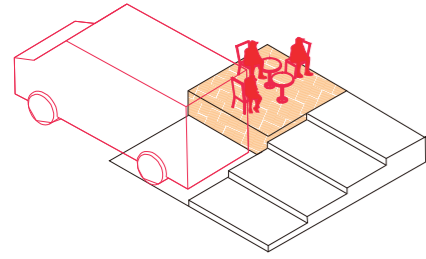
対象路線の中でも大規模な土地利用がなされ沿道にもオープンスペースが広がるエリア。このエリアのホワイエは、ヒューマンスケールな空間としながらさまざまな趣味や遊びなどレクリエーションを展開させることで、多世代をつなぐ風景が広がります。



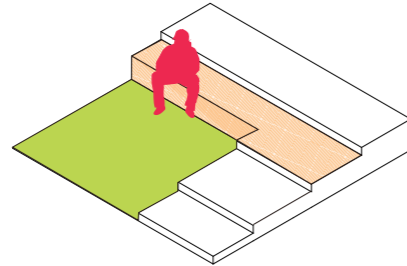
ピア | 移動結節点を人々やモビリティの所作の拠りどころとしていく

人とパーソナルモビリティの結節点をモビリティピアと定義する。

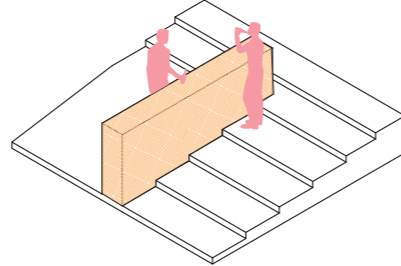
モビリティピアでは、モビリティを駐車するため水平な地面が要求される。対象地の各区間においてそれぞれ縦断勾配が存在し、そこに水平面を挿入するとその高低差のしわ寄せとして、より大きな勾配が生まれる。その部分を斜面、段差、小段などのバリエーションで解消し、そこが新たな人の拠り所となる。また、生み出されたピアの水平面は、モビリティの駐車以外にもアートの設置、パフォーマンス型アートのステージなど人の振る舞いにスポットがあたる場所となる。ピアを道行く人が眺めるようになり、モビリティの乗り降りという新たな振る舞いが今後のアートの眺めるべき所作へと変わっていく。



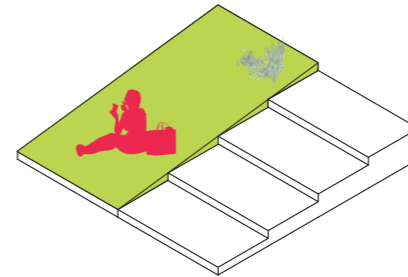
キッチンカーの寄り付き



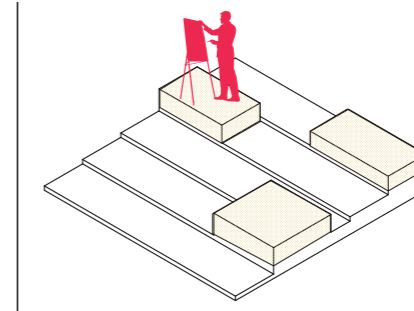
段差に腰を下して休憩する



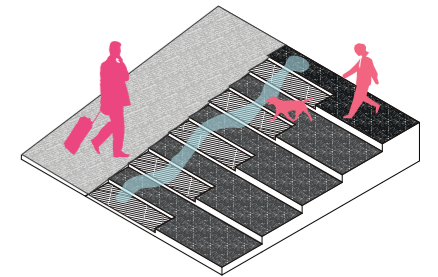
腰壁をカウンターテーブルのように



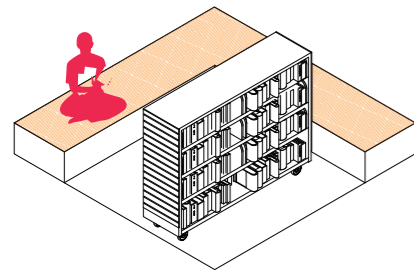
芝生スロープでごはんを食べる



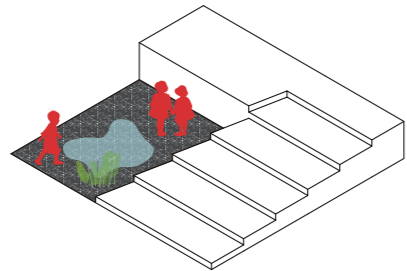
踊り場ステージでデッサン



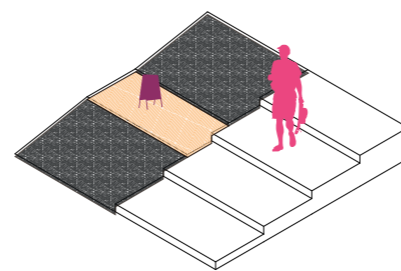
水の流が見える



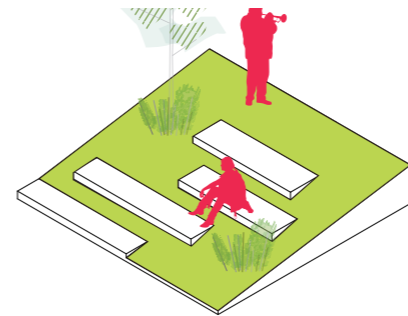
什器を設置し、あおぞら図書館に



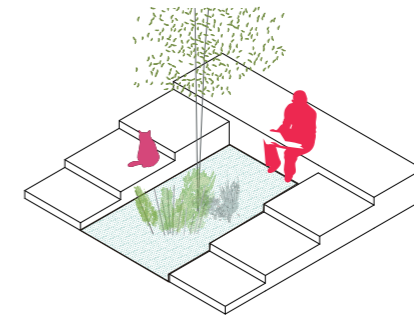
凹地形を活かした雨庭空間



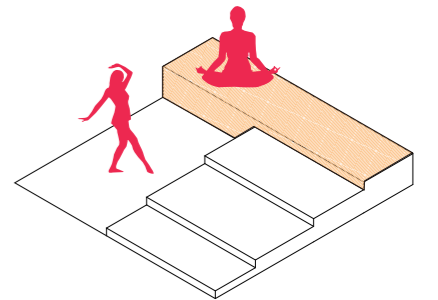
踊り場スペースに店舗のしみだし



ステップを活かして習い事の練習



植栽ますを通して他生物と過ごす



高低差を活かしてレッスン指導

持続的な道の運営管理を目指す、新たな振る舞いマネジメント団体の立ち上げ

地域住民の日常的な道とのかかわり方＝振る舞いが公共性もち、少しずつ道の維持管理や利活用に関わっていくことを想定する。道の中には、人々が使いたくなるピアを設置するため、そのピアを利用して発表などの占有行為を希望する際のワンストップ申請窓口として、新たなエリアマネジメント組織を立ち上げる。エリアマネジメント団体の収益源は主に広告費とする。具体的にはパーソナルモビリティのポートや、ピアノ壁面などを利用して、広告を出してもらいその企業からの広告費を活用する。対象地周辺には、港湾を拠点とする老舗企業が多数存在するが、そうした企業の地域貢献としてもこの道を活用する。

